

広報 しょうかわ

NO.86
莊川町まちづくり協議会
編集：広報委員
発行日：令和4年6月24日

わごう たき
和合の滝

莊川の滝を紹介します

しもたき
下滝

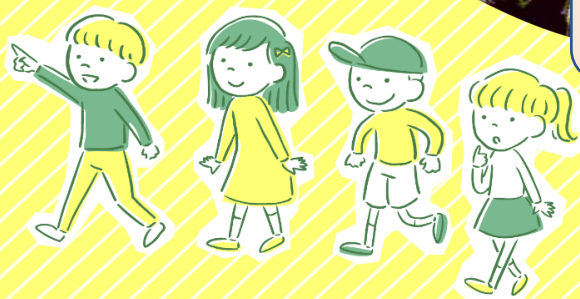
かみたき
上滝



LINE 公式アカウント始めました。
まち協広報に載せてほしい情報などを募集
しています。ぜひご登録ください。

アカウント名【莊川町まちづくり協議会】

※こちらから発信することは基本的にありません。
※グループアカウントとは異なりますので他の方に
トークが見られることはありません。



令和4年6月1日現在
()内は前月対比

人口と世帯

総人口	1,018 (+1)	総世帯	403 (+1)
男	487 (+2)	女	531 (-1)

しょうかわ〜友達の輪 ②②

莊川を担う若者から高齢者まで広い範囲で、莊川に思う事
そして莊川の好きなところ等を掲載しています。
第22回目は、清水 亮太さんを紹介します。



- 屋号 ちゅうざ
- 現在の仕事 農家（ミレットガイヤコーポレーション）
- 現在はまっていること 音楽、K-POP、映画、バドミントン



●莊川の好きなところ

★高速インター入口に新しいホテルができたこと

●これからの莊川について思うこと

★自然環境を大切にしていかなければと思います。

人口が減ってきているので少しでも莊川の良さを知ってもらって
増えたらいいなと思います。

うしろ姿がお父さんソックリです



莊川化石フォーラム 2022 の開催について

岐阜の手取層群に関する新知見や約 35 年にわたる岐阜の恐竜化石研究に加え、最新の研究成果やこれからの展望について講演会を通して紹介し、化石発掘体験、ワークショップを開催します。是非ご参加ください。

○日時:令和 4 年 8 月 7 日 (日)

午前 9 時～午後 3 時

○場所:莊川総合センター

○問合せ先:岐阜県博物館 電話 0575-28-3111

(講演会や化石発掘体験は事前予約が必要です)



第 10 回飛騨高山ウルトラマラソン

6 月 12 日 (日) にウルトラマラソンが開催されました。当日は 2803 人のランナーが高山の各地を快走しました。

ボランティアとして【莊川べっぴん桜】がどぶ汁とミニトマトを提供しました。



お疲れ様です



ミズバショウを獣害から守るため電柵設置

6 月 12 日 (日) 山中峠で電柵設置が行われました。岐阜大学安藤教授の指導の元、岐阜大学の学生と寺河戸町内会の皆様、森林管理署職員、支所職員など約 35 名が参加しました。
年々ミズバショウも増えつつあります。



身近な溪谷に涼を求めて



←上滝（かみたき）

七間飛林道（しちけんとびりんどう）の起点から約 3.8km に位置し、流域の面積から流量は少なく多段に流れる※段瀑（だんぱく）です。この山地は、当地を治めた内ヶ島氏理の安土桃山時代から金森長近が治めた江戸時代初期にかけて鉱山開発が盛んで金山谷は金が五升採れたとの風説から五升谷の地名も残されている。また栃木谷の坑道からの湧水は荘川の簡易水道の水源である。

和合の滝（わごうのたき）

七間飛林道の起点より約 4km で上滝金山流域と七間飛流域が合流する谷間から約 100m 下流に位置し落差は 5m 位で水量は多く※直瀑（ちよくばく）に近いです。

急峻なこの流域の木材搬出は、大正の頃まで※鉄砲流しが行なわれ堰（ダム）を作り水を貯め集めた山出しの木材は、堰を切って、水と一緒に庄川の合流まで一気に流送された。



←下滝（しもたき）

岩瀬林道の起点から約 400m に位置し滝ヶ谷を流域に大谷に入る流量は少なめですが、落差の有る岩肌を滑るように流れ落ちる※滑瀑（かつぱく）です。

下滝には、「下滝の力持ち」の伝説（下記参照）や昔よくシシ（猪）が出て農作物を荒したため石を何段にも積み上げた「シシガキ」が残っています。

※段瀑

水の落ち方から見た滝の分類の一つ。落ち口から流れ出た水が、途中で岩などにぶつかって段を作りながら落下する滝のこと。二つ段のあるものを二段瀑、三つのものを三段瀑という。

※直瀑

水の落ち方から見た滝の分類の一つ。水の落ち口から、岩壁を離れ、また岩壁に沿ってほぼ垂直に落下する滝のこと。

※鉄砲流し

堰を築いて川水を貯め、そこに山出しの木材を集めておき、一気に堰を開いて木材を流し出して運搬する方法。

※滑瀑（かつぱく）

岩肌を滑るように流れ落ちる滝。水量により扇状や糸状になることが多い。

下滝の力持ちの伝説

下滝（荘川村岩瀬）の若山忠右衛門のうしろ山に、一本の大きい松の木が生えていて、夜になるとその松の木に不思議な火がともるので、村人は神様松とおそろれていた。その木の根もとに不動さまがまつてあった。

忠右衛門は、ある時、この不動さまにおまいりして力持ちになりたいと願ったところ、不動さまはその年一年かぎりの力をお与えになった。

忠右衛門は力を試してみようと思って、郡上へ旅した時、道端にあった大石を軽々と差上げての大木につるしあげた。これをみていた若者たちは、よもやそれを下へおろすことは出来まいという、忠右衛門はその大石を抱えて大地へどっと投げつけると、大地に大穴をあけて深くめりこんだ。これをみて若者たちはその大力にあきれかえってしまったという。



